

Institutional Researchとは

— 日・米におけるIRの展開 —



柳浦 猛

TENNESSEE HIGHER EDUCATION
COMMISSION

4/20/2010

立命館大学・第1回教学IRセミナー

自己紹介



IR関連の経歴

- Research Director, Tennessee Higher Education Commission (2007-現在)
- Data Analyst, State Higher Education Executive Officers (2005-2007)
- Graduate Data Analyst, Midwestern Higher Education Compact (2003-2005)
- Institutional Research Intern, Minneapolis Community and Technical College (2003-2005)

IRって何?



- シンクタンク?
- コンサルティング?

“Institutional research is research conducted within an institution of higher education to provide information which supports institutional planning, policy formation and decision making” (Saupe, 1990)

From **The Functions of Institutional Research 2nd Edition**

(訳: **Institutional research** とは、大学の戦略、政策策定および意思決定をサポートする情報を提供することを目的として大学内で行われる研究のことをさす)

IRが行うこと



- 大学の抱える課題をデータの上から明らかにすること
- 政策提言
- 政策実行の根回し作業

IRが“やらないこと” 2



- 政策決定
- 問題解決

野球でいえば・・・(アメリカ)



- 学生
- 教員
- 学長
- 副学長
- 職員
- IR
- 理事会

- 監督
- コーチ
- 選手
- 観客
- 裏方のスタッフ
- オーナー

野球でいえば・・・(アメリカ)2



2001年 95打数42安打
4割4分2厘

2002年 93打数39安打
4割1分9厘

2003年 102打数39安
打3割8分2厘

2004年 115打数52安
打4割5分2厘

**2005年 27打数3安打
1割1分1厘**



要するに…



Institutional Research というのは

政策決定者に対して、課題を明らかにし、その解決方途の糸口を提供するプロフェッショナルである

自身の体験1



- 場所：コミュニティカレッジ
- 顧客：数学教員
- 質問：数学学科が提供している初年度教育の効果を知りたい

自身の体験2



- 場所：コミュニティカレッジ
- 顧客：広報宣伝課
- 質問：学生確保のためのマーケティング戦略を考えたい

自身の体験3



場所：テネシー州

顧客：議会・州知事

背景：ロータリースカラシップ制度

課題：卒業するまでに70%がスカラシップを喪失

議会の反応：GPAの条件を低くするべきでは？

- <http://thecreports.state.tn.us>

自身の体験4



場所：テネシー州

顧客：議会・州知事

課題：2008年度に実施した奨
学金制度の効果の測定

○2年終了時のGPA:

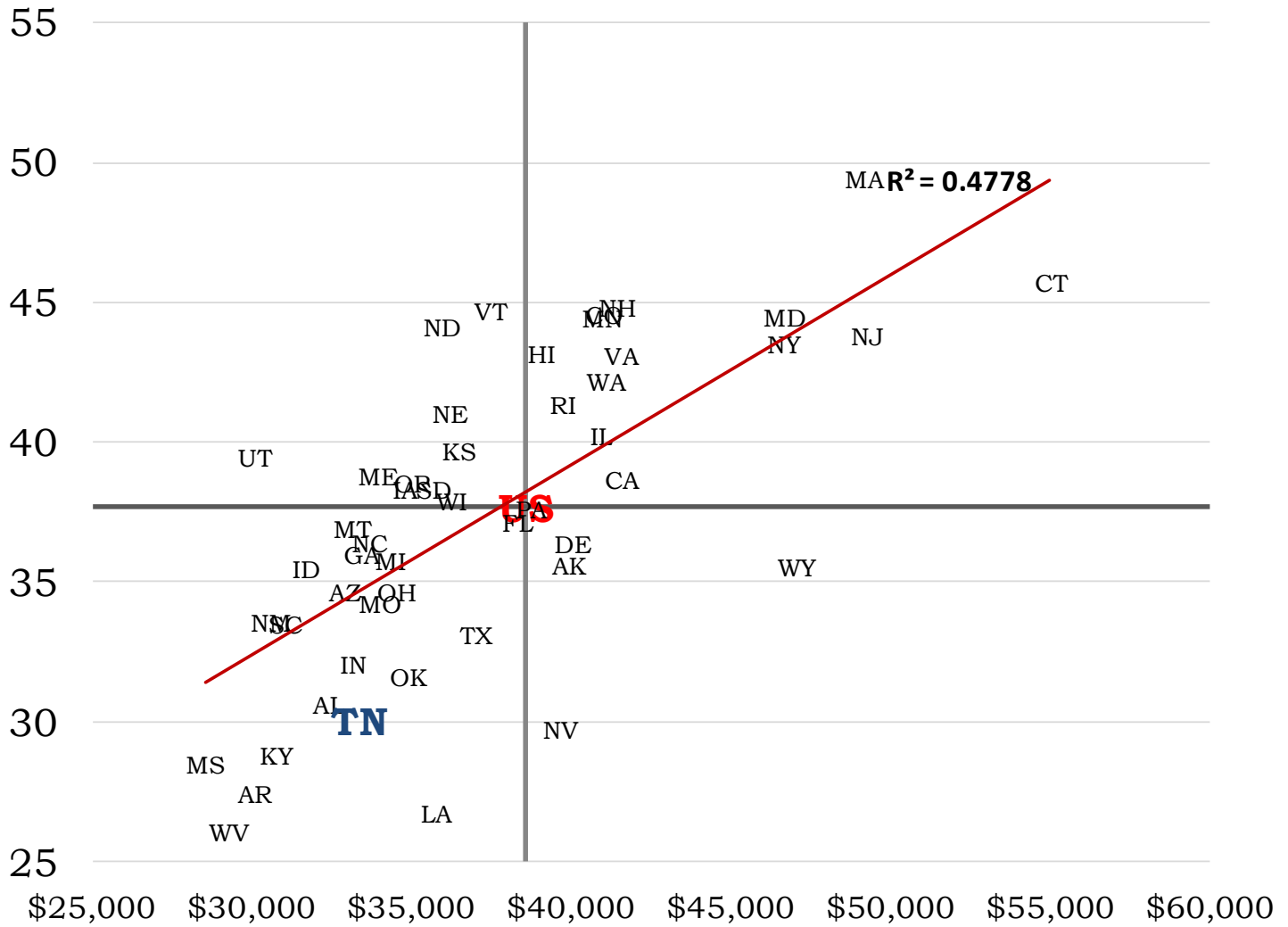
3.0 → 2.75

自身の体験5



- 場所：州政府
- カスタマー：政府高官
- 課題：州の教育水準が低い

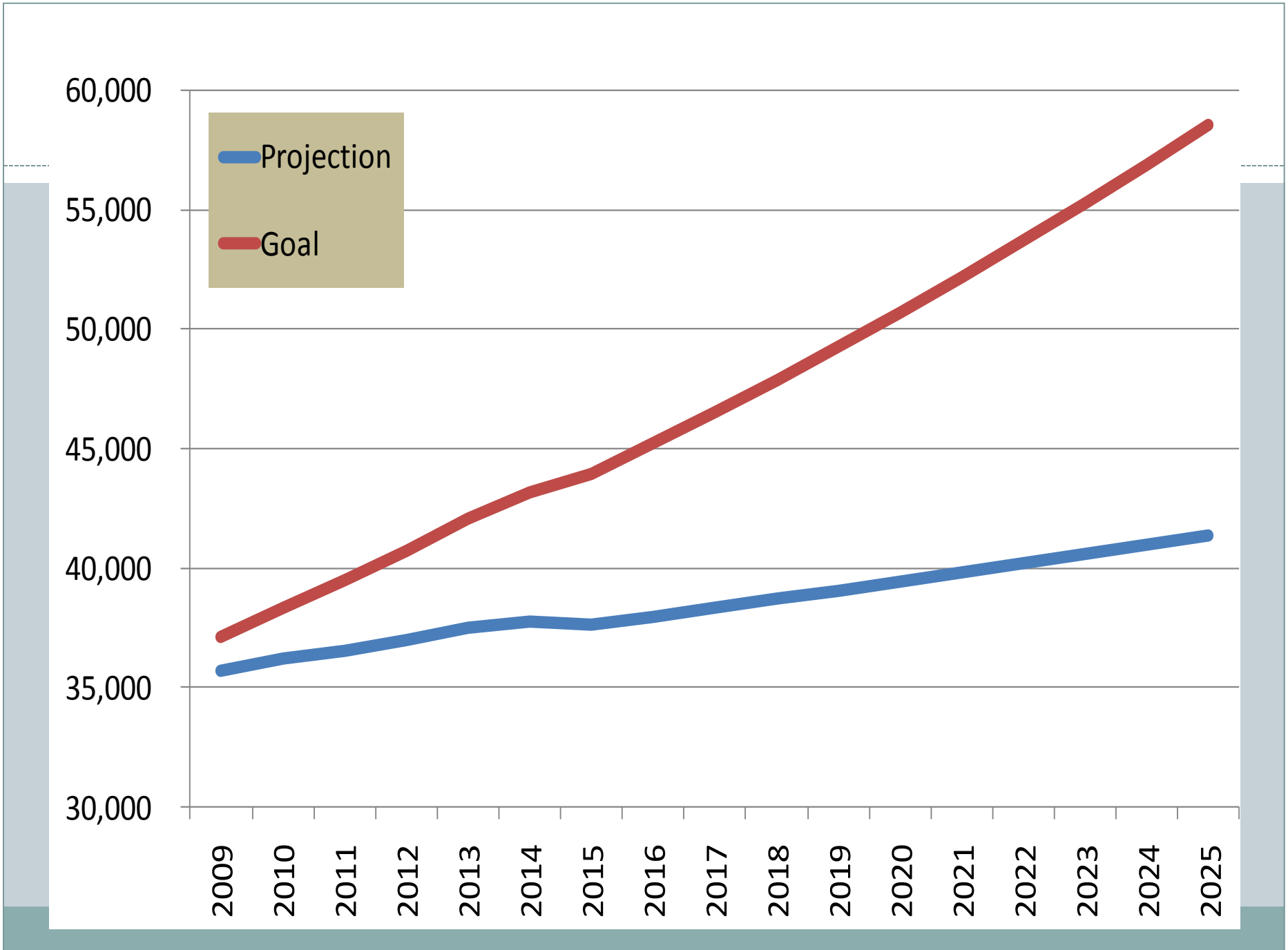
**Adults Age 25-64 with Bachelor's Degree
or Higher (%)**



Personal Income per Capita, 2007

Total Revenue per FTE - Universities Inflation Adjusted





45,000
44,000
43,000
42,000
41,000
40,000
39,000
38,000
37,000
36,000
35,000

2008-09 2009-10 2010-11 2011-12 2012-13 2013-14 2014-15

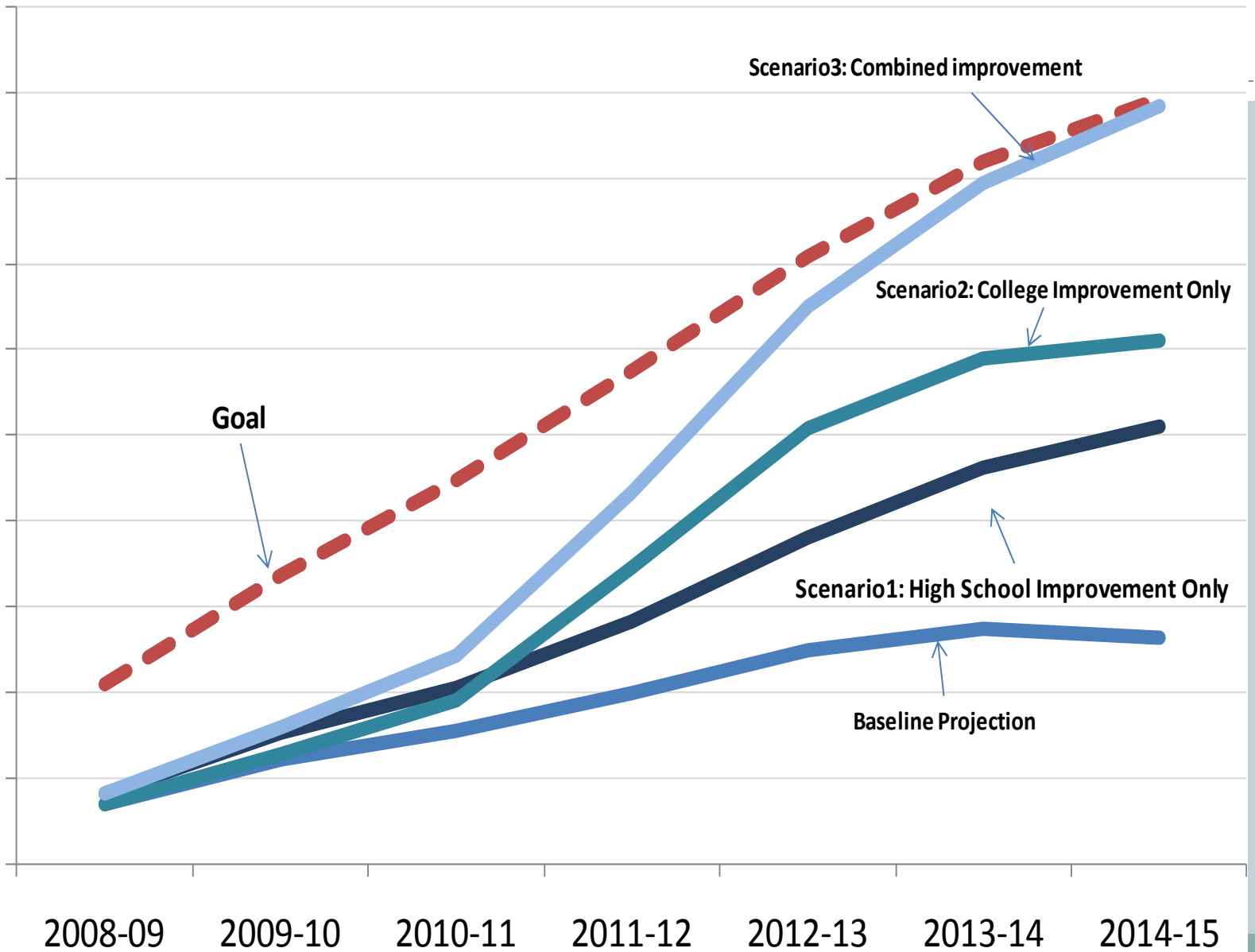
Goal

Scenario3: Combined improvement

Scenario2: College Improvement Only

Scenario1: High School Improvement Only

Baseline Projection





System	Current Degree Production, 2008-09 (Est)	Degree Production in 2014-15 (Base)	Degree Production in 2014-15 (Scenario 3)	Compound Average Growth Rate
UT	6,216	7,169	8,739	5.8%
TBR4	11,153	12,154	14,202	4.1%
TBR2	7,254	7,597	9,106	3.9%
TICUA	11,062	10,715	11,796	1.1%
Total	35,685	37,635	43,844	3.5%



Indicators	Cumulative Enrollment Increase	Cumulative Degree Production Increase	<i>Productivity Ratio</i>	Notes
Remedial %	615	137	22.2	33% to 32%
4th Year Retention Rate	4,036	814	20.2	1% Increase across the system
3rd Year Retention Rate (All Systems)	5,606	803	14.3	1% Increase across the system
High School Graduation Rate	4,004	561	14.0	71% to 72%
College Students, Migration-Out Rate	3,985	555	13.9	13% to 12%
College-going Rate	5,316	741	13.9	65% to 66%
2nd Year Retention Rate (All Systems)	6,858	692	10.1	1% Increase across the system
Dual Enrollment Ratio	2,194	50	2.3	16 to 17
Adult Participation Rate	6,591	53	0.8	5.4% to 6.4%

IRとは？



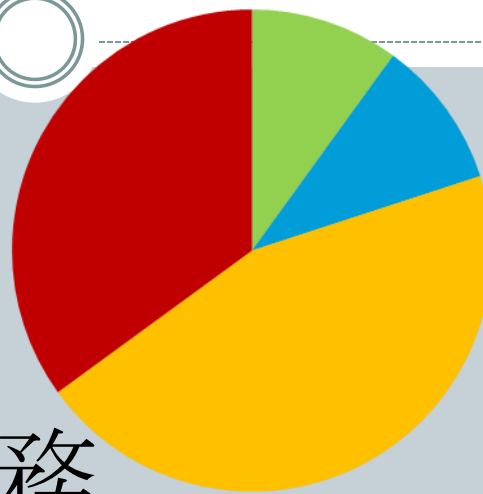


アメリカにおけるIRの今後

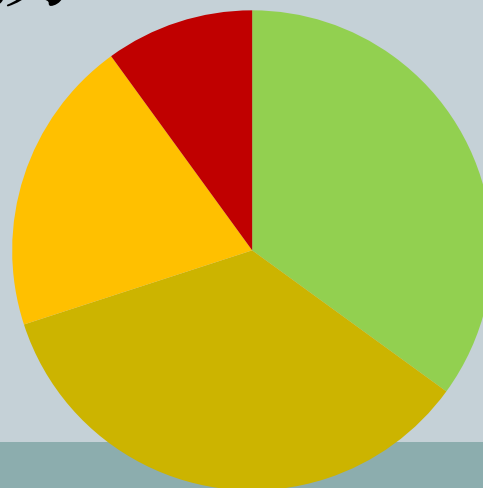
IRの業務

ある大規模州立大学の例

- コンサルティング
- 分析・研究活動
- 内部向けの報告業務
- 外部向けの報告業務

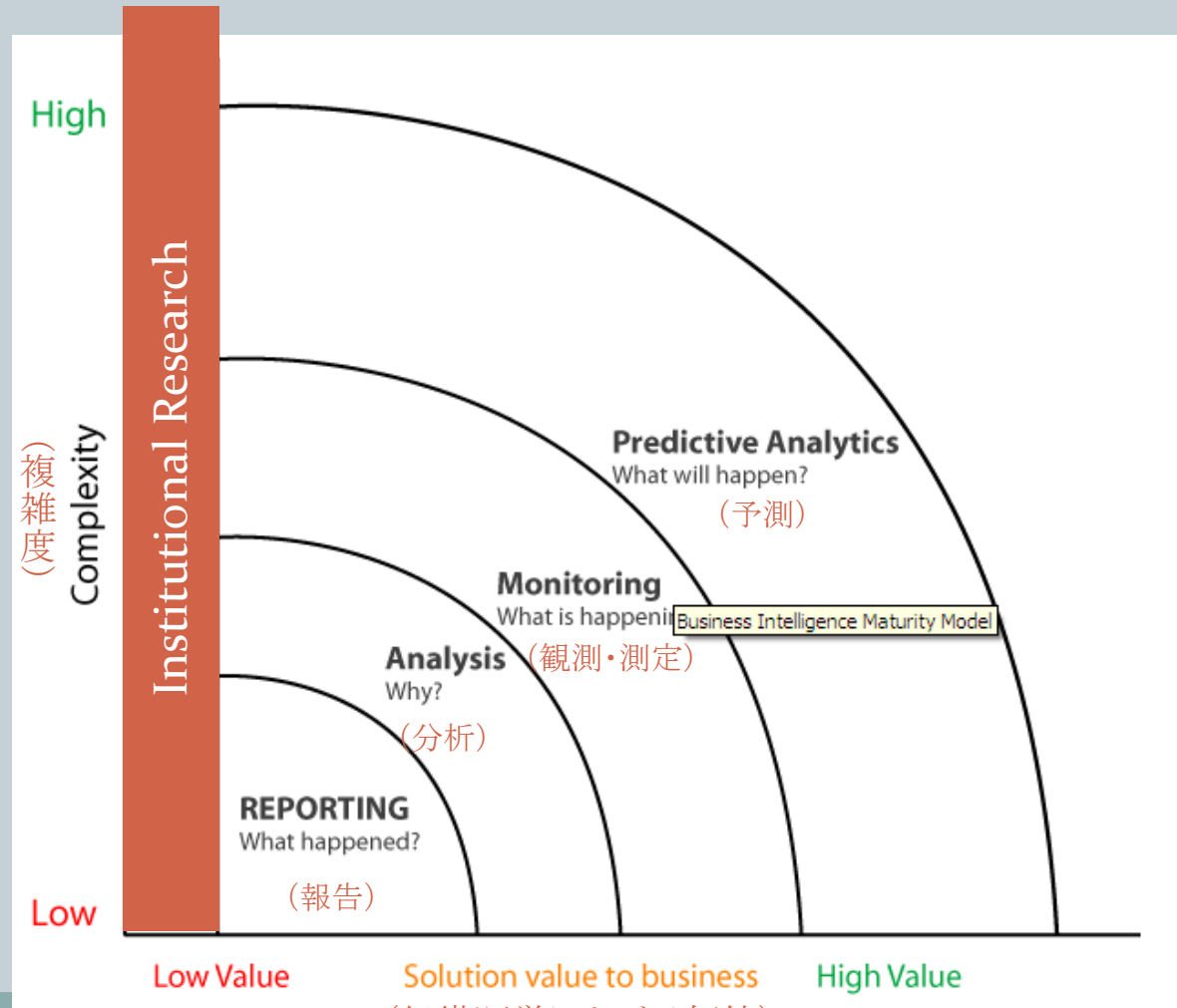


- コンサルティング
- 分析・研究
- 内部向けの報告業務
- 外部向けの報告業務



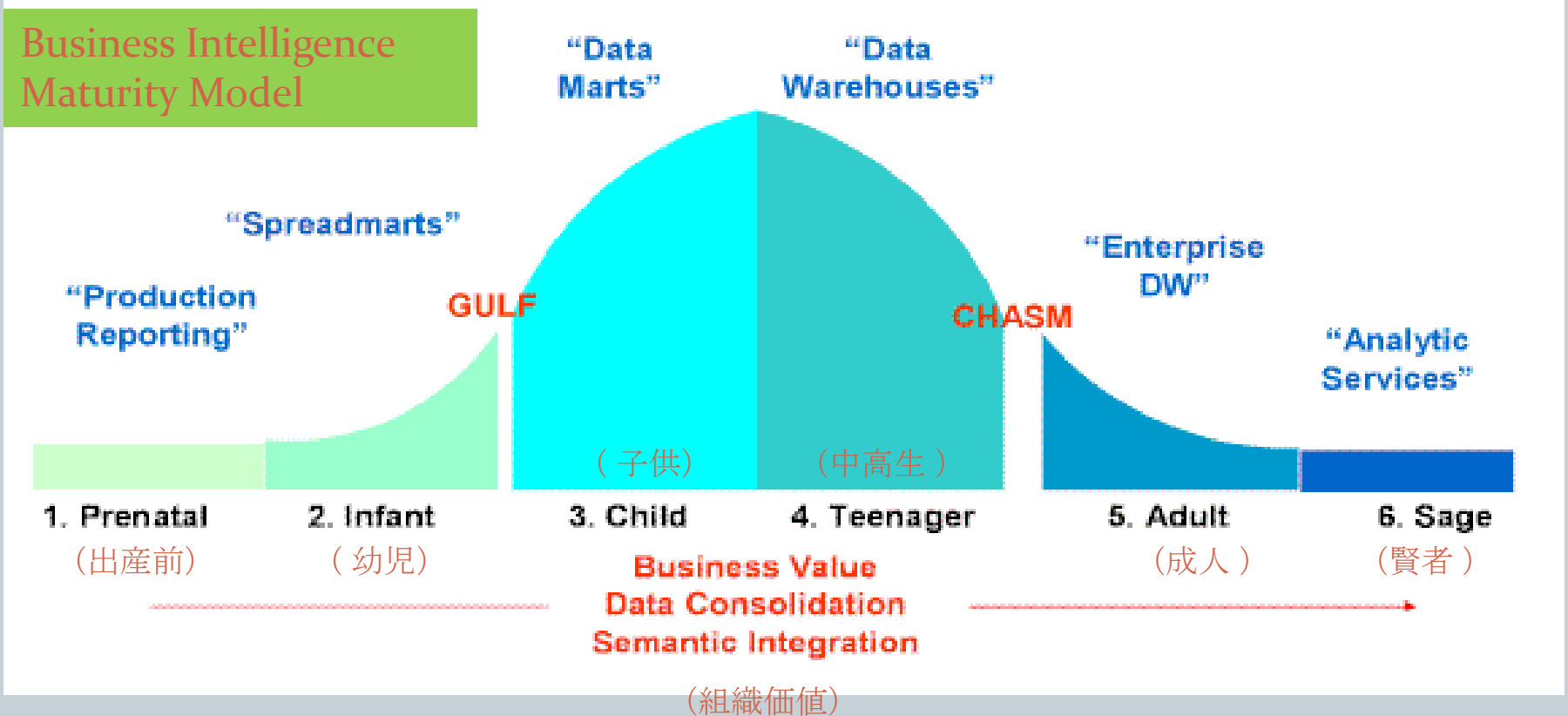
- コンサルティング
- 分析・研究
- 内部向けの報告業務
- 外部向けの報告業務

IRの存在価値



(組織運営における価値)

ビジネスインテリジェンス構築の流れの中で



アメリカにおけるIRの今後の動向

- 情報管理システムの変化(中央集権型からの移行)
 - データベースの進化
 - IT部門とIRからの独立
 - 各部門の情報収集・分析能力の発達
 - データ・情報管理のリーダーシップの重要性



“IRはもはや統計に長けた研究者だけでは勤まらない。データガバナンスに精通し、問題解決能力のある、リーダーシップ能力のある人物が今後のIRに求められる”

IRの存在価値を高めるために1



Key: データベースの強化

- 分散する真実(データベース)の統合
- 意思決定に役に立つデータベースの構築
- 報告業務の自動化
- 研究活動の増加→Institutional Research本来の役割

IRの存在価値を高めるために2



Key: リサーチスタッフの強化

- データがあっても使いこなす人がいなければ意味をなさない
- 高等教育に対する理解をもち、かつデータ分析に優れた人
- コミュニケーション能力に長けた人

IRの存在価値を高めるために3



Key: 首脳陣のリーダーシップ

- IRは問題を解決するのではなく、問題を明らかにする人
- 問題を解決するのは、首脳陣であり、教員

日本でIRが機能しづらい理由



- 大学のリーダーシップの所在が曖昧:最終責任者は誰?
 - IRの報告先が曖昧
- 大学首脳陣のリーダーシップスキル
 - リーダーシップを発揮しづらい
 - データを使う必要性を感じていない
 - データをどのように経営戦略に活かせばよいかかわからない
 - 戦略設計の仕方がわからない
- 大学におけるデータポリシーの欠如
 - 大学経営という観点から、IRにどのようなデータをアクセスさせればいいのか理解している人が少ない。
 - IR自身もどのようなデータにアクセスする必要があるのかを理解している人が少ない

日本のIRに求められる能力



- 大学におけるIRとしての明確なビジョン
 - IRのミッション、限界を理解すること
- 大学における戦略設計スキル
 - 学内のコンセンサス構築
- 基礎的な分析力
- データベースに関する理解
 - どのようなデータが必要か？
- 人間力



連絡先



- Takeshi.yanagiura@tn.gov